

水泳の授業 泳ぐことは自分や家族の命を救うことに！



早い子で0歳児プールから始まる水泳競技。「泳ぐ」というカテゴリは、一般的に幼稚園や保育園でプールの時間で水に慣れることから始まり、小学校体育では「泳ぎの基礎」を身につけることが大きな目的になっています。クロールや平泳ぎなどの泳法の基礎となる、バタ足や息継ぎ、キックやストロークなどの練習を用具や反復練習を用いて学んでいくこととなります。

小学校の体育科では「クロール」「平泳ぎ」が中心で、学校の実態に応じて「背泳ぎ」を取り入れる形になっています。「プール開き」(6/11)に河合駿介先生の模範泳法を見学しましたが、全国レベルの泳ぎを見ることも技術上達につながる一手でもあります。「こんなにもきれいに速く泳げるんだ！」と魅せられますが、水泳を行うことは

- ・いざという時に泳げる力をつける。
- ・泳ぎ続ける練習を続けることで忍耐力をつける。
- ・心肺機能を高める。(喘息持ちのお子様がプールを習うきっかけもここにありますが)

などにつながります。身近に泳ぐことのできる海や川がない地域では、やはり学校の授業や部活動が唯一泳ぐ機会となるため、いかに密度が高い練習ができるかが鍵となります。

水に慣れることから始まる水泳の授業。震災で被害が大きく出ている日本にとって、泳げることは自分の命や家族の命を救うことにもつながります。何事も始まりが肝心なので、水に触れること、潜ること、連続して泳ぐことを楽しい授業の中で学べたらいいですね。



《表彰》「体力テスト」体力賞 **祝** A判定

〈愛知県教育委員会〉

安藤 響 (5年) 近藤 大空 (5年) 盛 伊吹 (5年) 薬丸 颯人 (5年)
松浦 由依 (5年) 山川 芽泉 (5年) 酒井 桂 (6年) 森 鳳峨 (6年)

《表彰》 **祝** 優良クラブ表彰 岡崎市立常磐南小学校少年消防クラブ

あなた方のクラブは、火災予防の研究と防火思想の普及に優秀な成績を上げられ、学区住民の防火意識を高めたことは他の模範とするところであります。よって竿頭綬を授与し表彰します。

〈岡崎市少年消防クラブ運営指導協議会〉